

令和5年度 第1回 西条市子ども・子育て会議 開催記録

日 時	令和5年12月21日（木）19：00～21：00	
場 所	西条市役所 本館5階 大会議室	
参加者	<p>【委員：14人】公立保育所保護者会長、西条市保育協議会会長、私立幼稚園園長、私立保育園園長、私立幼稚園教諭、小学校校長会長、学識経験者、主任児童委員部会長、青少年健全育成協議会会長、医師、商工会議所青年部会長、PTA連合会副会長、児童発達支援センター施設長、母子寡婦福祉連合会会長</p> <p>【市側：12人】こども健康部長、こども健康部副部長兼健康医療推進課長、教育委員会事務局副局長兼学校教育課長、子育て支援課長、保育・幼稚園課長、健康医療推進課主幹、副課長兼子育て世代包括支援係長、女性係長、子育て支援係長、保育・幼稚園係長、母子保健係長、地域学校協働係長</p>	
次 第	<p>1 部長挨拶</p> <p>2 協議題審議</p> <p>（1）第2期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p> <p>（2）その他 西条市公立保育所等再編整備計画（案）について</p>	
	<p>【協議題審議】（1）第2期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p> <p>幼児教育・保育の提供体制の進捗状況、地域子ども・子育て支援事業の進捗状況について 担当課から説明</p>	
	委員の発言要旨	市の発言要旨
	<p>子育て短期事業について</p> <p>児童相談所が宿泊を伴う保護について対応しているとあるが、これは養育環境に何らかの課題があって児童相談所が一時保護という形をとっているから、この事業を使わなくて済んでいるということか。</p>	
	<p>子どもが病気の時は仕事を休んで、子どもとしっかり向き合って看護できることが本当はいいと思う。</p>	—
	<p>乳児家庭全戸訪問事業について</p> <p>「新型コロナウイルス感染症流行時は訪問を希望されない保護者もいた」とのことだが、コロナによって拒むというより、精神的な問題で断る人もいるのではないかと思うが、現場で気になることはあるか。</p>	
		<p>ご本人が断る理由としては「コロナが怖い」が多かったが、もしかしたら他人に家に入られたくないというメンタル的な問題もあったかもしれない。ただ、今年度からは、子育て応援給付金の申請をこの訪問のときにすることとしているので、訪問を断るケースはない。</p>

放課後児童健全育成事業について	
私は、放課後児童クラブとは、親が働いていて祖母に預けられない子どもをかぎっ子にはいけないということで、放課後子ども教室のような何かを教えるというのではなく、保育の小学校版という意味合いが強いと思っている。今年度から学校教育課に事務が移り、学校との連携がうまくいくことはいいことだと思うが、安全安心という福祉の面が大事なのではないかと。	—

【協議題審議】 （２）西条市公立保育所等再編整備計画（案）について	
再編整備計画（案）を説明	
第1章 計画の策定にあたって	
1 計画策定の要旨	
2 再編整備の基本的な考え方	
3 計画の位置付け	
4 計画の期間	
5 再編整備の対象施設	
第2章 就学前児童を取り巻く現状と課題	
1 就学前児童の推移	
2 現状と課題	
第3章 公立保育所等再編整備計画	
1 課題解決に向けた目指すべき方向性	
2 公立保育所等の再編	
※1月にパブリックコメントを実施する予定	

委員の発言要旨

- ・公立は決められていることが多すぎて、現場の先生が新しいことにチャレンジするには壁がある。旧西条地区に特色のある私立がたくさんあったら、保護者が職場に近いしそちらに預けようということになるかもしれない。
子どもの数が減っているので、統合は致し方ないと思う。ただ、幼稚園・保育園の子どもたちがお散歩している姿が、地域に元気を与えている。コミュニティスクールなど「地域で子どもを育てよう」と言うのであれば、地域に与える負の影響を少しでも緩和できるよう、いろんな組織と連携するなどの工夫をするのも一案ではないか。
- ・私立園長宛の公設民営化に関するアンケートについて、いくつかの園が手を挙げたそうで、それはいいことだと思う。
本当に保育士が不足している。先日も、西条市として保育士確保のための施策を打てないかという相談をさせてもらった。たとえば、産休育休中の保育士が復帰するとき、自分の子どもを預けようと思っても点数で負け、復帰を諦めることもある。保育士や看護師の子どもを希望する園へ最優先で入所させてもらえたら、保育士等が復帰でき、入所を待っているほかの保護者のお子さんも余分に預かれるのに。点数の配分は、西条市の中で決められることだと思う。

・公立は途中入所を受け入れてくれない。うちはフリーの先生がいるので、クラスを編成しながらできるだけ受け入れている。ただ、他地域の子がたくさん入ると、近くの子が入ろうと思っても入れない。丹原地区は一時保育がなく、うちは一時保育を受けようと思って建てたが、人数が多すぎて、一時保育を予定していた部屋は普通の保育室になっている。

一方で、集団生活を経験する場で、就学に向かっている年長児が1人や2人しかいないというのは、おかしいんじゃないかなとも思う。

今、支援を必要としている子どもが多い。利用者の少ない園に、こういったニーズに応える機能を持たせてはどうか。

1時間の延長保育は、1週間に6人以上いなければ補助金が減額されるが、うちは4人なので人件費だけでかなりの出費となる。国の施策なので市に言っても仕方ないかもしれないが、少し補助がもらえたらありがたい。

・量的な近年のトレンドを踏まえ、地域の事情を精査した上で再編計画を作っていて、よく理解できた。ただ、市民にとっては、園がなくなるとか悲しいイメージだけではいけないと思う。量的にみると、再編せざるをえない状況は理解できるが、保育教育の質的なことが今回の計画には盛り込まれていない。再編することで、保育士不足の解消や、施設面で新しい環境が生まれることが期待できるだろうし。

特に公立園であれば、私立ができない役割や機能があると思う。多様化する子どものための支援ニーズ、地域子育て支援拠点、他機関との連携、保育士の確保育成といった質的な面での整備も打ち出していくと、市民も予算や人手がないからせざるをえない再編ではなく、新しい時代に向けたより良い保育教育のための整備なんだと理解してもらえるのではないかと思う。

この再編整備によって、市の予算がどうなるのかも知りたい。赤字が減りますとか。